

# 神宮大麻・神社神符 御神札頒布の手引き

新年を迎えるにあたり、氏神社からお頒布される新しい御神札が、各家庭の神棚にくまなく奉斎されますよう、皆様の御協力をお願いいたします。

御神札の頒布に際し、参考にしていただきたい事柄を取り纏めましたので御活用ください。尚、記載内容に不明な点がありましたら、氏神社の神職に遠慮なくお問い合わせください。

## 【御神札について】 御神札の種類

各家庭や事業所の神棚でお祀りする御神札には、伊勢の神宮から頒布される「神宮大麻」と、氏神社の「氏神神符」、崇敬する神社や旅行等で参拝した神社の「神社神符」があります。御神札は神々のお力が宿された御璽みしろしのことで、古来、神社と氏子を繋ぐ心の絆であるとされています。神宮大麻や氏神神符は、できるだけ丁寧にお取り扱いください。

## 【神宮大麻】 あまてらすさま・おいせさま

三重県伊勢市に鎮座する伊勢の神宮は、天照大御神あまてらすおおみかみをお祀りし、日本の総氏神と称されています。天照大御神の御神札のことを特に「神宮大麻」とお呼びします。明治天皇の思召しにより、国民が朝夕神宮を敬拝するために神宮から全国の神社を通じてお頒布されています。神宮大麻のことを親しみを込めて「あまてらすさま」や「おいせさま」とお呼びする場合があります。一般に言われる伊勢神宮は正式には「神宮」とお呼びします。

## 【氏神神符】 うじがみさま

氏神神社は、祖先を同じくする氏族が、その祖神や一族に縁の深い神様を「氏神」としてお祀りしたのがはじまりです。それが時代とともに地域（郷土）の守り神のことを称するようになり現在に至っています。郷土の守り神である氏神さまの御璽みしろしを頂いたものが「氏神神符」です。氏神社や氏神神符のことを親しみを込めて「うじがみさま」とお呼びする場合があります。

## 【御神札のまつり方】 神棚のつくり

### ・三社造りの場合

中央に「神宮大麻」、向かって右に「氏神神符」、左に崇敬神社など「神社神符」をお祀りします。

### ・一社造りの場合

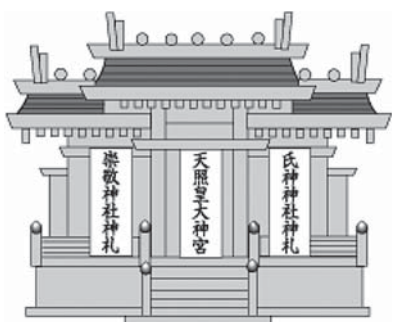
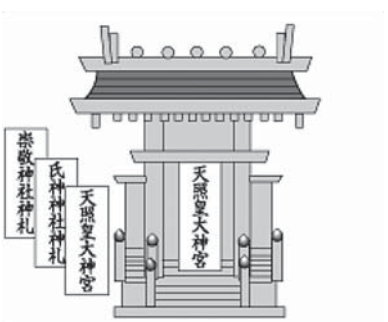
手前に「神宮大麻」、その次に「氏神神符」、奥に「崇敬神社」の御神札を重ねてお祀りします。

### ・神棚（宮形）の設けがない場合

家庭では、南向きか東向きあづかりの明るい場所にお祀りします。しかし事情により困難な場合もあります。

棚の設置場所がない場合には、タンスの上など高い場所に白い布や紙を敷いてお祀りします。また、最近では壁掛けにできる小さな宮形もあります。神棚の備えがないからと御神札をお受けにならない場合がありますが、氏神社の神職と対応を相談し、一体でも多くの御神札が各家庭、会社に奉斎されるように御協力願います。

生まれた土地を離れて生活される場合に、郷里の神社を崇敬神社としてその神符をお祀りすることも良いことです。



## 【お参りの作法】 ～朝夕のお参り

朝夕、神棚の前で神様に感謝のお参りをします。朝のお参りの前に、米・酒・塩・水などをお供えします。

お供え物は、夕方、感謝のお参りをしてお下げします。

お参りの作法は、先ず二拝し「お参りの詞」などを唱えます。次いで二拝二拍手一拝のお参りをします。

## 【御神札の薄紙】 ～包み紙

御神札には薄紙が巻いてあります。これは御神札本体を汚さないための包み紙です。新しい御神札をお祀りする際は、この薄紙を取りはずしてから神棚にお祀りします。

## 【一年に一度】 ～毎年新しい御神札を

御神札は一年に一度お取替えをします。新年を迎えるにあたり、神棚を清め、神社から受けた新たな御神札を神棚にお祀りします。新しい御神札には、新しい一年をお守り頂く御神霊の力が宿されています。今までお祀りしていた古い御神札は、一年を無事に過ごせた感謝をこめて神社に納めます。神社では古神札焼納祭（左義長、どんど焼きとも呼ばれます）において御神火によって焼納し、皆様の無病息災を祈ります。

## 【アパートやマンション】 ～くまなく頒布を

アパートやマンション、新興住宅地に住んでいる方のお宅にも神棚があります。御神札が届くのを心待ちにしている方も多いので、是非お声がけください。場合によっては頒布活動がままならない建物や、自治会、町内会に所属していないところなどもありますので、氏神社の神職とよく相談して、くまなく頒布くださるように御検討願います。

## 【年内の御不幸】 ～五十日過ぎてから

生活を共にしている方、同居の家族が亡くなられた場合は、『忌』の期間として、五十日（仏事では四十九日）が過ぎるまで神棚へのお参りを遠慮します。（この間は、神社への参拝も遠慮します。）

忌の期間を過ぎれば、神棚への拝礼を通常通り行い、神社参拝も通常に復します。

この五十日間（忌の期間）にお正月を迎える場合は、五十日が過ぎてから後に、氏神社から新しい御神札を受けるようにします。

以上のように、神棚は、日々の生活の中で、その中心に位置しています。楽しむこと、嬉しいことは神様のお蔭と感謝し、辛いこと、苦しいことは神様からの試練と受け止める心。祖先から受け継いだ日本の美しい心は、神棚中心の生活の中に根付いています。

頂き物や、季節の物、珍しいものなどは、先ず神様にお供えしてから家族で頂きたいものです。

※その他、御神札に関することは地元元の神社へお問い合わせください。

## 富山県神社庁

〒九三〇一〇〇八八 富山市諏訪川原二丁目一〇番二一号

電話 〇七六一四三三二七三九〇

### お供えの一例

